

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	多可町生涯学習まちづくりプラザ建設工事	階数	地上2F地下0F		
建設地	兵庫県多可郡多可町中区岸上281番地17の一部	構造	RC造		
用途地域	都市計画区域内区域区分非設定及び下水道処理区域	平均居住人員	405 人		
地域区分	5地域	年間使用時間	4,845 時間/年(想定値)		
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2024年12月 竣工	評価の実施日	2024年12月16日		
敷地面積	6,767 m ²	作成者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘		
建築面積	2,445 m ²	確認日	2024年12月16日		
延床面積	2,966 m ²	確認者	株式会社内藤建築事務所大阪事務所浪江明弘		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

環境品質

環境負荷 L

S

A

B+

B-

C

64

42

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

■建設 ■修繕・更新・解体 ■運用 ■オンサイト ■オフサイト

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外の

④上記+

0

46

92

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

5

4

3

2

1

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.4

5

4

3

2

1

音環境

温熱環境

光・視環境

空気質環境

3.0

3.7

3.1

3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

5

4

3

2

1

機能性

耐用性

対応性

3.6

3.4

3.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.7

5

4

3

2

1

生物環境

まちなみ

地域性・

3.0

4.0

4.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

5

4

3

2

1

建物外皮の

自然エネ

設備システ

効率的

4.6

4.0

2.2

3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

5

4

3

2

1

水資源

非再生材料の

汚染物質

3.4

3.7

3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.2

5

4

3

2

1

地球温暖化

地域環境

周辺環境

3.1

3.5

3.1

3 設計上の配慮事項

総合

建物全体の熱負荷を抑えた外皮計画と、空間の可変性を備えた、環境性に優れた建物としている。

Q1 室内環境

外皮性能の向上、床吹き出し空調の採用、昼光設備としてハイサイドライトを用いるなど、室内環境に配慮した。

Q2 サービス性能

維持管理に配慮した設計とともに、耐用年数の長い配管材料を採用するなど耐用性・信頼性に配慮している。

Q3 室外環境 (敷地内)

構造用集成材に兵庫県産材を利用、さらに、造作用製材の一部は多可町産材を利用するなど、地域性の材料を使用し、地域固有の風土の継承について配慮している。

LR1 エネルギー

高効率の空調設備やLED照明を採用し、エネルギー消費の低減に努めている。

LR2 資源・マテリアル

節水便器やリサイクル建材を採用し、省資源に取り組むとともに、図書室のOAフロア採用により将来の部材再利用の可能性向上にも配慮している。

LR3 敷地外環境

運用に伴って発生するCO2の発生量を低く抑えることで、地球温暖化に配慮している。

その他

特になし。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される